

# 管内の百名山 「赤城山」



赤城山のレンゲツツジ



氷上のワカサギの釣り

「赤城の山も今夜を限り、生れ故郷の国定の村や縄張りを捨て、国を捨て、可愛い子分の手めえ達とも、別れ別れになる首途だ。」、これは大正、昭和期の劇作家、行友李風作「極付 国定忠治」的一幕です。

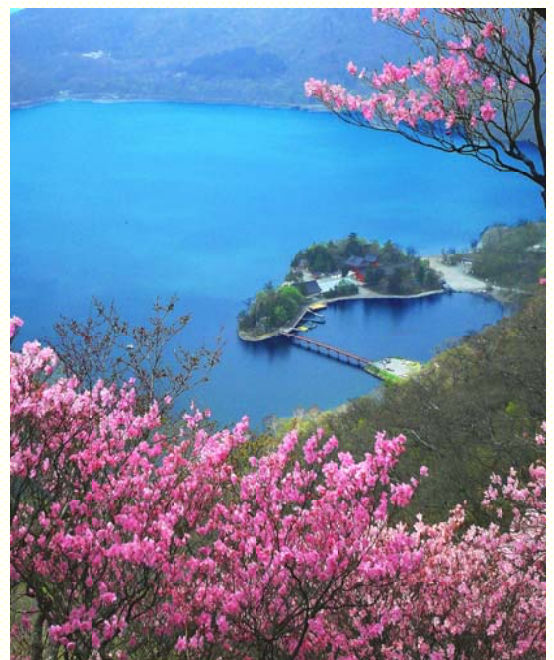
ここに出てくる赤城山は、群馬県のほぼ中央に位置し、標高1,828<sup>㍎</sup>の黒檜山を最高峰とする峰々（駒ヶ岳1,685<sup>㍎</sup>、地蔵岳1,674<sup>㍎</sup>、鈴ヶ岳1,565<sup>㍎</sup>、長七郎山1,579<sup>㍎</sup>）が赤城大沼（カルデア湖）を取り囲むようにそびえる複式火山の総称で、群馬県を代表する榛名山、妙義山と並び、上毛三山の一つに数えられています。

「赤城」の名の由来は、その昔、日光男体山の北西麓の戦場ヶ原で、男体山の神と赤城山の神が、それぞれ大蛇と大ムカデになって戦い、赤城の神が敗れ追われてやってきた場所が赤城山の北にある老神温泉で、ここで傷を癒した赤城山の神が男体山の神を追い返したとの伝説があり、そのとき神が流した血で山が赤く染まったことから「赤き」が転じて「赤城」になったという説があります。

また、赤城山は、群馬県内で親しまれている「上毛カルタ」で「裾野は長し赤城山」と詠まれ、その優美な姿は県内各地から観ることができ、春から初夏にかけてアカヤシオやシロヤシオ、レンゲツツジが咲き誇り、夏には赤城大沼での釣りやボート遊び、秋には色とりどりの紅葉の中の登山、冬には氷上のワカサギの穴釣り等、四季折々に人々を楽しませてくれる群馬県民の憩いのスポットです。

群馬森林管理署は、赤城山周辺の国有林約98<sup>㍎</sup>をレクリエーションの森（赤城山風致探勝林）に指定し、人と自然の共生を目指した森林造りを推進するとともに、県自然環境保全地域等に指定されている鈴ヶ岳、荒山、鍋割山等については、ミズナラ等天然林を主体とする豊かな森林の保全に取り組んで参ります。

（群馬森林管理署広報広聴連絡官）



赤城大沼